

平成 27 年度

島根大学大学院医学系研究科
医科学専攻（修士課程）

学 生 募 集 要 項

入学案内

（一般入試・社会人入試）
（第 3 次募集）

島根大学大学院医学系研究科

目 次

ページ

アドミッション・ポリシー	1
--------------------	---

学生募集要項（第3次募集）

1 募 集 人 員	1
2 出 願 資 格	1
3 出 願 手 続	2
4 入 試 方 法	3
5 合 格 者 発 表	4
6 入 学 手 続	4
7 入 試 成 績 の 提 供	4

入学案内

1 目 的	6
2 修 業 年 限	6
3 大学院設置基準第14条による教育方法の特例	6
4 コースの概要並びに研究指導教員及び主たる研究内容	6
5 授業科目の講義等の内容及び担当教員	10
6 授業科目，単位数及び履修方法	16
7 履 修 モ デ ル	21
8 修 了 の 要 件	23
9 学 位 授 与	24
10 長 期 履 修 制 度	24
11 入学料・授業料の免除及び徴収猶予制度	24
12 奨 学 金 制 度	25
13 学 生 教 育 研 究 災 害 傷 害 保 険	25
14 個 人 情 報 の 取 扱 い	25

◆アドミッション・ポリシー◆

島根大学が推進する地域基盤型教育と地域課題解決型研究に積極的に参加し、地域再生・活性化に取り組む熱意にあふれ、将来、老年・若年人口対策、医食同源、医療、福祉等の分野での活躍を希望する、医学部医学科出身以外の学生を求めています。

学 生 募 集 要 項

1 募 集 人 員

医科学専攻修士課程 若干人

2 出 願 資 格

(1) 一 般 入 試

次の各号のいずれかに該当する者とします。

(平成27年3月末日までに該当する見込みの者を含む。)

大学を卒業した者

学校教育法第104条第4項の規定により学士の学位を授与された者

外国において、学校教育における16年の課程を修了した者

外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者

我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者

専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定したものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者

文部科学大臣の指定した者（昭和28年2月7日文部省告示第5号）

学校教育法第102条第2項の規定により大学院に入学した者であって、本学において認定試験を行い、本学大学院における教育を受けるにふさわしい学力があると認めた者

本学大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、22歳に達した者

【本研究科において、個別の入学資格審査によって、
大学を卒業した者と同等以上の学力があると認める者】

短期大学、高等専門学校、専修学校、各種学校などの教育課程を修了した上で、次のいずれかに該当する者

1) 医療・福祉・健康関係の教育・研究施設で教育・研究に携わっている者

2) 放送大学などでさらに2年以上の教育を受けた者

3) 看護師、保健師、臨床検査技師、診療放射線技師、臨床工学技士、理学療法士、作業療法士、視能訓練士、言語聴覚士、介護福祉士、管理栄養士、栄養士、救急救命士、消防士、歯科衛生士、歯科技工士等として、3年以上の実務経験のある者

4) 学会発表、学術雑誌への掲載の経験（主著者あるいは共著者）のある者

5) 英語のレベルが、実用英語検定、TOEFL、TOEICなどで一定以上の実力のある者

6) その他、上記の例に相当すると考えられる経歴あるいは実力のある者

(注意)

- ・前記 , によって出願しようとする者は, 事前に出願資格審査の説明を行いますので, 平成27年2月10日(火)までに医学部学務課(出雲キャンパス)に相談してください。
- ・外国の大学を卒業した者は, 事前確認を行いますので, 平成27年2月10日(火)までに医学部学務課(出雲キャンパス)に相談してください。

(2) 社会人入試

前記(1)の各号のいずれかに該当し, かつ, 社会人としての実務経験を有する者

- 医科学専攻には「総合医科学コース」, 「がん専門薬剤師養成コース」, 「地域医療支援コーディネータ養成コース」, 「医療シミュレータ教育指導者養成コース」及び「地域包括ケア人材養成コース(医療経営重点)」があります。
- 「がん専門薬剤師養成コース」に入学を希望する者は, 薬剤師の資格を有していること(又は平成27年の薬剤師国家試験に合格すること)が条件となります。
- 「地域医療支援コーディネータ養成コース」に入学を希望する者には, 地域の医療福祉を担当する行政職員等を含みます。

3 出願手続

(1) 出願受付期間

平成27年2月16日(月)から2月20日(金)まで。

窓口受付は9時から17時まで。

なお, 郵送による場合も2月20日(金)必着とします。

(2) 出願方法

出願書類は一括して提出してください。郵送の場合は, 必ず本学所定の封筒を用い, 書留郵便によって提出してください。

なお, 出願に際しては, あらかじめ研究指導を希望する担当教員に照会の上, 出願してください。

担当教員に関することについては, 医学部学務課(③の照会先)へ問い合わせてください。

(3) 出願書類等提出及び照会先

〒693-8501 出雲市塩冶町89-1

島根大学医学部学務課大学院担当

電話 0853-20-2083

(4) 出願書類等

提出書類	摘要
入学志願票	本要項添付の用紙に記入してください。
受験票・写真票	本要項添付の用紙にそれぞれ氏名を記入の上, 写真(上半身, 無帽, 正面向きとし, 出願前3か月以内に撮影したもの)を所定欄に貼付してください。
成績証明書	大学等の成績証明書で, 出身大学(学部)等の長が作成し厳封したものとします。
卒業証明書等	大学等の卒業(見込)証明書で, 出身大学(学部)長が作成し厳封したものとします。
自己推薦書(論文)	志望の動機 大学あるいは大学院等で学んだ専門知識の概略(社会人にとっては職業歴に基づいた専門知識の概略) 本要項添付の用紙を使用し, , を区分別に記載(全体で1,600字程度)し, 提出してください。ワープロも可とします。

入 学 検 定 料 振 込 金 証 明 書	平成27年度島根大学「入学検定料」振込依頼書等用紙の所定欄に必要事項を記入し、銀行・信用金庫・農協等の金融機関（ゆうちょ銀行・郵便局を利用される場合は、「通帳及び印鑑」が必要です。現金による振込はできません。）で、取扱期間中（平成27年2月9日(月)～平成27年2月20日(金)の窓口取扱時間内（15時00分まで）に同用紙にて、入学検定料30,000円を振り込んでください。（ＡＴＭ（現金自動預払機）は使用しないでください。）振込手続後、窓口で返却された「票 振込金証明書（島根大学提出用）」を同封してください。 なお、以下の場合以外は、納入された入学検定料は、いかなる理由があっても返還することができません。 出願書類等を提出したが受理されなかった場合 該当者に連絡しますので、所定の期日までに手続を行ってください。 入学検定料を振り込んだが、島根大学に出願しなかった場合 入学検定料を誤って二重に振り込んだ場合 上記 及び については、本人の申出によって納入された入学検定料を返還することができますので、2月27日(金)までに財務部経理・調達課出納担当（電話0852 - 32 - 6029）へ連絡してください。 なお、返還の手続を行う際に「票 振込金受取書（志願者保管）」及び「票 振込金証明書（島根大学提出用）」が必要となりますので、大切に保管しておいてください。これらの書類がないと振込事実の確認ができず、返還ができないことがあります。
返 信 用 封 筒 (受 験 票 送 付 用)	本要項添付の返信用封筒に郵便番号、住所、氏名を明記し、672円分の切手を貼付してください。
あ て 名 票 (合格通知書送付用)	本学からの通知が確実に届く郵便番号、住所、氏名を記入してください。
薬剤師免許証の写し (がん専門薬剤師養成コース志願者)	薬剤師免許証の写しをA4サイズに縮小して提出してください。 (薬剤師免許取得見込みの者を除く。)
在 職 期 間 証 明 書	任意の様式で、在職時の職名、在職期間を証明できる書類を提出してください。
受 験 許 可 書	現在在職中の者は、所属長の受験許可書（様式自由）を必ず提出してください。
「在留カード」の写し又は 「外国人登録証明書」の写し	外国人の志願者は、「在留カード」の写し又は「外国人登録証明書」の写しを提出してください。

(注意)

いったん受理した出願書類等は、いかなる理由があっても返還しません。

出願書類に不備がある場合は、受理できません。

その他不明な点があれば前記(3)の「出願書類等提出及び照会先」へ問い合わせてください。

(5) 障がい等を有する志願者との事前相談について

本学大学院に入学を志願する者で、障がい等（視覚障がい、聴覚障がい、肢体不自由、病弱等）があり、受験上及び修学上特別な配慮を必要とする場合は、出願受付開始までに前記(3)の「出願書類等提出及び照会先」に相談してください。

4 入 試 方 法

(1) 入 試 方 法

入学者選抜は、自己推薦書（論文）、小論文（基礎的な英語の学力を試す問題を含む。）、口頭試問の審査を総合的に判断し判定します。

(2) 試験日程及び試験科目等

試験日程	試験科目等	試験時間	試験場
平成27年 3月5日(木)	小論文	13:30～14:30	島根大学医学部 (出雲キャンパス)
	口頭試問	15:00～	

(備考)

小論文の試験時間において、一般的な語学用辞書（医学専門辞書及び電子辞書は不可）の持込みを許可します。

口頭試問は、研究指導を希望する分野について行います。

口頭試問の期日は、前記を原則としますが、指定した期日に変更する場合があります。

5 合格者発表

平成27年3月21日(土) 11時

合格者本人には、合格通知書を郵送します。

なお、電話等による合否の照会には応じません。

また、本学ホームページに合格者の受験番号を速報として掲載しますが、正規には通知書にて確認してください。

ホームページアドレス <http://www.shimane-u.ac.jp/nyushi/>

6 入学手続

合格者は、入学手続期間内に入学手続書類等を持参の上、入学手続を行ってください。詳細については、合格通知書送付の際に連絡します。

(1) 入学手続期間

平成27年3月27日(金) 9時から17時まで

(2) 入学手続場所

島根大学医学部学務課大学院担当（出雲キャンパス）

(3) 入学料及び授業料

入学料 282,000円（予定額）

【注意事項】

入学手続時までに入学料の改定が行われた場合は、新入学料が適用されます。

授業料

授業料は、入学後にお支払いただくことになります。

(1) 授業料の額（前期分）267,900円（後期分）267,900円【年 額】535,800円

(2) 授業料のお支払方法

授業料のお支払は、預貯金口座からの「口座振替」を原則としています。

【注意事項】

入学時及び在学中に授業料の改定が行われた場合には、改定時から新授業料が適用されます。

7 入試成績の提供

入試成績を、次のとおり提供します。

(1) 提供内容

学力試験の得点及び総合順位（ランク区分）

(2) 申 請 期 間

平成27年5月1日(金)～5月29日(金)

(3) 申 請 方 法

申請は、医学部学務課大学院担当へ直接来学又は郵送のいずれかの方法で行ってください。

(4) 申請時必要書類

入試情報提供申請書（次のいずれかの方法により取り寄せてください。）

ア 島根大学ホームページから印刷して使用してください。

イ 医学部学務課大学院担当へ直接来学してください。

ウ 郵送の場合は、返信用封筒（長形3号，12cm×23.5cmの大きさのものに82円分の切手を貼し，郵便番号，住所，氏名を明記したもの）を同封し，「入試情報提供申請書請求」と明記したメモを添えて申し込んでください。

島根大学受験票

返信用封筒（長形3号，12cm×23.5cm）（郵送の場合のみ）

封筒には，必ず申請者本人の住所，氏名，郵便番号を明記し，簡易書留分の切手（392円分）を貼ってください。

(5) 提供の決定通知

提供申請の結果は，入試情報提供申請書の受理後30日以内に入試情報提供通知書により通知します。

(6) 提 供 方 法

郵送又は申請者（受験者）本人に直接文書を交付することにより提供します。なお，直接来学する場合は，本人であることを証明できる書類の提示が必要です。

(7) 申請及び提供場所

〒693 - 8501 出雲市塩冶町89 - 1

島根大学医学部学務課大学院担当

電話 0853 - 20 - 2083

入 学 案 内

1 目 的

医科学専攻修士課程は、医学部医学科以外出身の者に、総合的・学際的サイエンスとしての医科学の視点を付与し、本学及び地域における独自の研究・教育の実績を、教育・訓練を通じて学生に還元することによって、老年・若年人口対策、医食同源等の分野に関わる研究・教育、社会事業・企業活動などに、医科学の基礎と専門知識を持って携わることのできる人材の育成を目的とします。

2 修業年限

修業年限は、2年を標準としますが、職業を有している方などで研究時間が十分に取れず標準の修業年限では修了することが困難な場合には、修業年限を超えて長期にわたって計画的に教育課程を履修することができます。(24頁の10 長期履修制度を参照願います。)

3 大学院設置基準第14条による教育方法の特例

社会人学生の就学を容易にし、広く社会のニーズに応えるべく、大学院設置基準第14条の規定を活用した「昼夜開講制」を導入しています。

4 コースの概要並びに研究指導教員及び主たる研究内容

医科学専攻修士課程は、教育・研究領域として次の5コースを設定しています。

1) 総合医科学コース

多様な背景を持つ学生に、医科学の視点から教育することによって、老年・若年人口対策、医食同源等の分野にかかわる研究・教育、社会事業・企業活動などに、医科学の基礎と専門知識を持って携わることのできる人材を育成します。

研究指導教員 (所属)	主 たる 研 究 内 容
大 谷 浩 (発 生 生 物 学)	ヒト及び実験動物の正常及び異常発生に関する研究、発生工学、分子発生学
安 井 幸 彦 (神 経 形 態 学)	内臓機能及び運動機能に関与する脳内神経機構の研究、辺縁系神経回路の実験形態学
紫 藤 治 (環 境 生 理 学)	環境適応とその中枢機序、体温の調節機序、ドライマウス改善、自然素材による生活環境の改善
橋 本 道 男 (環 境 生 理 学)	多価不飽和脂肪酸の生理機能の解明と臨床応用、天然物由来機能性物質の開発、循環生理・薬理学
廣 田 秋 彦 (神 経 ・ 筋 肉 生 理 学)	膜電位の光学的多領域同時測定法とその適用、大脳皮質における神経活動の時・空間パターン解析
伊 藤 眞 一 (神 経 ・ 筋 肉 生 理 学)	内臓感覚の中枢機構、神経回路および神経活動の解析
土 屋 美 加 子 (代 謝 生 化 学)	タンパク質の修飾による生体機能調節の分子メカニズム
浦 野 健 (病 態 生 化 学)	染色体ダイナミクスの制御機構、タンパク質の時空間挙動の可視化及びモノクローナル抗体を用いたバイオ医薬品開発
藤 井 政 俊 (分 子 科 学)	高分子超薄膜・両親媒性分子集合体の物性およびソフトサーフェイスと生体分子間に働く相互作用の解明と医療応用を目指したその制御

松 崎 有 未 (腫瘍生物学)	高純度間葉系幹細胞を分離する技術の確立，未分化性維持に関わる特異的機能分子の同定，MSC特異的レポーター遺伝子導入動物の作成と体内動態の解明
竹 永 啓 三 (腫瘍生物学)	がん組織の微小環境とがん細胞との相互作用による増殖と転移の制御機構の分子細胞生物学的解明と治療への応用
和 田 孝 一 郎 (薬理学)	生活習慣病の発症メカニズムの解明，および分子薬理学・病態薬理学を基にした新しい疾患治療法の開発
塩 田 直 孝 (薬理学)	循環器疾患・慢性炎症性疾患・膠原病・関節リウマチ・肺線維症の病態発症機構の解明，疾患モデル動物を用いた病態生理学的解析
並 河 徹 (病態病理学)	多因子遺伝性疾患（生活習慣病）の遺伝解析，遺伝子探索
丸 山 理 留 敬 (器官病理学)	病理診断精度の向上や悪性腫瘍治療に寄与するための，形態学的，免疫組織化学的及び分子生物学的研究
吉 山 裕 規 (微生物学)	ヒト腫瘍の発生に關与するウイルスと細菌の分子生物学的研究，混合感染におけるウイルスと細菌の相互作用と宿主応答変化の研究
佐 野 千 晶 (微生物学)	細胞内寄生菌の生物学・感染免疫学・分子生物学並びにそれら感染症の化学療法に関する基礎的研究
原 田 守 (免疫学)	癌に対する免疫応答と免疫療法に関する研究，自己免疫・移植免疫・アレルギーの病態と治療に関する研究
竹 下 治 男 (法医学)	ヒト体液中の遺伝マーカーの開発・応用を利用した法医鑑識科学的研究
神 田 秀 幸 (環境保健医学)	社会における健康リスクと関連要因に関する研究
嘉 数 直 樹 (環境予防医学)	腫瘍発生の分子機構の解明，労働衛生学，予防医学，細胞遺伝学
津 本 周 作 (医療情報学)	医療情報学，特に医療分野への人工知能，データ工学，統計学的手法の応用，ラフ集合論，データマイニング，医療画像処理，医療設備学（特に通信環境と電気・電磁環境），医療管理学（医療安全管理，医療機器の動作安全管理）
太 田 明 (医療社会文化学)	学習・記憶の研究・その神経的メカニズムの解明
杉 本 利 嗣 (内科学第一)	カルシウム・骨代謝，視床下部 - 下垂体系並びに糖代謝の調節機構の解明に関する基礎的・臨床的研究
木 下 芳 一 (内科学第二)	消化器疾患の病態の解明と診断・治療に関する基礎的，臨床的研究
石 原 俊 治 (内科学第二)	炎症性腸疾患の病態の解明と診断・治療に関する基礎的，臨床的研究
山 口 修 平 (内科学第三)	脳血管障害の成因，病態，治療に関する研究，高次脳機能とその障害の臨床的，生理学的研究
村 川 洋 子 (内科学第三)	臨床免疫学（膠原病における病態・治療）

田 邊 一 明 (内 科 学 第 四)	心不全の成因，病態，治療に関する研究，高齢者心臓弁膜症の診断・治療に関する研究，心臓超音波検査における新技術の応用に関する研究
磯 部 威 (呼吸器・臨床腫瘍学)	臨床腫瘍学，呼吸器病学，抗がん薬ならびに分子標的治療薬の臨床薬理学的検討
森 田 栄 伸 (皮 膚 科 学)	皮膚アレルギー疾患の病態解析と新治療法の開発，食物アレルギーの構造解析，皮膚疾患の遺伝子解析，感染症
山 口 清 次 (小 児 科 学)	先天代謝異常の質量分析による診断，および病因，病態に関する研究
福 田 誠 司 (小 児 科 学)	血液腫瘍細胞と血液幹細胞の増殖，遊走のメカニズムに関する研究
田 島 義 証 (消化器・総合外科学)	消化器・乳腺内分泌・小児疾患に関する臨床的・基礎的研究と低侵襲外科治療学
織 田 禎 二 (循環器・呼吸器外科学)	心臓外科，呼吸器外科，血管外科領域における低侵襲手術法の開発，臓器虚血，心不全に関する研究
内 尾 祐 司 (整 形 外 科 学)	運動器の損傷と修復及び再生
秋 山 恭 彦 (脳 神 経 外 科 学)	脳血管障害の成因，病態，外科的治療に関する研究，中枢神経腫瘍の浸潤・増殖の制御と治療に関する研究
永 井 秀 政 (脳 神 経 外 科 学)	脳血流と頭蓋内圧，脳神経超音波学，てんかん学，機能的脳神経外科，神経画像診断学（脳腫瘍），脳神経のバイオメカニクス
椎 名 浩 昭 (泌 尿 器 科 学)	泌尿器学の分子生物学，膀胱再生，薬剤耐性の機序
堀 口 淳 (精 神 医 学)	内因性精神病及び老年期精神障害の臨床精神薬理学的・電気生理学的研究
京 哲 (産科婦人科学)	婦人科悪性腫瘍の発生分子メカニズムの解明と分子標的治療の開発
川 内 秀 之 (耳 鼻 咽 喉 科 学)	上気道の粘膜免疫，アレルギー疾患の制御，滲出性中耳炎の病態，頭頸部癌の集学的治療，内耳自己免疫病
大 平 明 弘 (眼 科 学)	網膜血管障害及び網膜光障害と生体防御因子に関する研究，血管新生と血管増殖抑制に関する研究，網膜の再生
兒 玉 達 夫 (眼 科 学)	眼部腫瘍性病変における免疫組織化学的研究，眼腫瘍診断精度向上に関する研究，網膜毛細血管機能の生理学的研究
北 垣 一 (放 射 線 医 学)	画像診断法を用いた脳神経機構の研究，神経放射線診断学（特に認知症を呈する脳神経疾患）
猪 俣 泰 典 (放 射 線 腫 瘍 学)	放射線有害事象の解明と防止に関する基礎的・臨床的研究，過酸化水素の放射線増感作用に関する臨床的研究
齊 藤 洋 司 (麻 酔 科 学)	疼痛伝達とその制御機構，呼吸循環調節に関する研究
関 根 浄 治 (歯 科 口 腔 外 科 学)	細胞・分子生物学的アプローチによる口腔病変の診断と治療精度向上に関する総合研究
長 井 篤 (臨 床 検 査 医 学)	細胞再生医療研究，神経幹細胞の分化・増殖機構に関する研究，アミロイドーシスの発症機構と診断に関する研究，生活習慣病の疫学研究

矢 野 彰 三 (臨床検査医学)	加齢，糖尿病，慢性腎臓病におけるやせ／肥満・骨代謝異常・血管障害に関する研究
熊 倉 俊 一 (地域医療教育学)	血液学，がん遺伝子，臨床免疫学，感染制御，地域医療教育学，医学教育・シミュレータ教育，家庭医療学
石 橋 豊 (総合医療学)	血管不全の病態解明に関する基礎的・臨床的研究
廣 瀬 昌 博 (地域医療政策学)	医療システム・医療制度・医療活動と医療の経済性および質との関連性に関する研究，医療安全・感染対策等の病院組織横断的活動の医療経済学的検証
佐 倉 伸 一 (手術部)	区域麻酔，区域麻酔と呼吸・循環，局所麻酔薬の神経毒性，超音波ガイド下末梢神経ブロック
馬 庭 壯 吉 (リハビリテーション部)	整形外科疾患のリハビリテーション
佐 藤 秀 一 (光学医療診療部)	慢性肝疾患における線維化進展と発癌に関する病態の解明
鈴 宮 淳 司 (腫瘍センター)	包括的ながんの診断および治療方法に関する研究，臨床血液学，基礎的および臨床試験を含む新規抗がん薬ならびに治療法の開発
小 林 裕 太 (基礎看護学)	生体情報学・環境科学に関する研究（環境蓄積性物質と健康，動物比較生理学，医食同源の科学），医療社会学
中 村 守 彦 (地域医学共同研究部門)	タンパク質の翻訳後修飾による細胞機能調節機構の解明と医・理工連携によるナノメディシン研究
松 本 健 一 (生体情報・RI実験部門)	細胞外マトリックスから細胞内への情報伝達機構の分子細胞生物学的研究，プロテオミクス的手法による病態の網羅的解析

2) がん専門薬剤師養成コース

薬剤師免許を有する者（薬剤師免許取得見込みの者を含む。）を対象とし，課程修了後にがん薬物療法認定薬剤師及びがん専門薬剤師の認定申請資格が取得可能な人材を養成します。

研究指導教員（所属）	主たる研究内容
直 良 浩 司 (薬剤部)	医療薬学，臨床薬理学，薬物動態学，特に薬物相互作用，薬物トランスポーター，漢方薬，薬物中枢移行，ファーマコゲノミクスに関する研究
西 村 信 弘 (薬剤部)	薬物動態学，薬物の体内動態を規定する因子に関する研究，薬物代謝酵素およびトランスポーターに関する研究

3) 地域医療支援コーディネータ養成コース

県及び各市町村において地域の医師定着支援と地域で働く医師・看護師等の支援を業務とする「地域医療支援コーディネータ」を養成します。

研究指導教員（所属）	主たる研究内容
熊 倉 俊 一 (地域医療教育学)	血液学，がん遺伝子，臨床免疫学，感染制御，地域医療教育学，医学教育・シミュレータ教育，家庭医療学

4) 医療シミュレータ教育指導者養成コース

医療系大学及び医療機関に設置されたスキルアップセンターやスキルラボにおいて医療シミュレータ教育に従事することや、医療系職種の養成機関において臨床実習前のシミュレータ教育に従事することができる「医療シミュレータ教育指導者」を養成します。

研究指導教員 (所属)	主たる研究内容
熊倉 俊一 (地域医療教育学)	血液学, がん遺伝子, 臨床免疫学, 感染制御, 地域医療教育学, 医学教育・シミュレータ教育, 家庭医療学

5) 地域包括ケア人材養成コース (医療経営重点)

地域包括ケア人材養成コース (医療経営重点) は、地域包括ケアを実践する地域高齢者社会にあって、急速に変遷する医療および介護制度のもとで、患者の安全確保と医療の質の向上という最大の命題を課せられつつも、限られた医療資源の有効活用の観点から、効率的な病院経営を実践できる能力、厚生行政において適切な制度設計を提案できる能力および地域包括ケアにおける課題や問題点を自ずから把握し解決する能力を有する医療人材を養成します。

なお、本コースは平成25年度文部科学省「未来医療研究人材養成拠点形成事業」に採択された、島根大学、神戸大学、兵庫医科大学の3大学共同事業である「地方と都会の大学連携ライフイノベーション」の地域包括ケア人材養成コース (医療経営重点) に該当します。

研究指導教員 (所属)	主たる研究内容
廣瀬 昌博 (地域医療政策学)	医療システム・医療制度・医療活動と医療の経済性および質との関連性に関する研究：医療制度・介護保険制度と医療経営との関連性に関する研究、地域における医療費フローに関する研究、国民皆保険制度下の医療費からみた医師確保・医師偏在に関する研究、地域包括ケアにおける県市町村との連携の在り方に関する研究、保険者 (市町村) からみた医療費適正化に関する研究など

5 授業科目の講義等の内容及び担当教員

授業科目名	講義等の内容	担当教員
生命科学概論	医科学の基礎をなす生命科学の成り立ち, 方法論, 今後の展開の可能性などについて学びます。また, 科学研究の方法, 発表・論文作成における戦略についても学びます。	土屋 美加子 廣田 秋彦 竹永 啓三
人体形態学	人体の構造を細胞, 組織, 器官, 個体の各レベルで階層的に理解できるように学びます。	安井 幸彦 大谷 浩一 北垣
人体機能学	人体の生理的機能を分子, 細胞レベルの生化学・分子生物学から, 組織・器官・個体レベルの高次の統合機能まで系統的・階層的に理解できるように学びます。	廣田 秋彦 紫藤 治 土屋 美加子 伊藤 眞一
病理病態学	疾病を代表的なカテゴリーに分け, それぞれについて分子・細胞レベルから組織・器官・個体レベルまで階層的かつ統合的に学びます。	並河 徹 丸山 理留 吉山 裕規 原田 守 磯村 実
社会医学	人類の健康に関する環境要因や法制・法科学, 並びに疾病予防の概要を学びます。	竹下 治男 神田 秀幸 井上 顕 木村 かおり

医 倫 理 学	生と死に関わる倫理的問題，医療と医学研究における倫理の重要性，医療・福祉における安全性，保健医療従事者と利用者間における援助関係などについて学びます。	竹堀 下 治 男 堀 口 卓 淳 稲 田 京 司 長
臨 床 医 学 概 論	人体を対象とする経験科学たる臨床医学の基本理念，方法論について学ぶとともに，臨床研究を進めるに際しての科学的方法論の原理を学びます。	木 下 芳 一 杉 本 利 嗣 田 邊 一 明 山 口 清 次 織 田 禎 二 秋 山 禎 彦 齊 藤 恭 司 佐 倉 洋 一
病態生理に基づいた薬物治療学	様々な病気のメカニズムを説き明かし，それぞれに適合した合理的な薬の使い方の原理を学びます。「アートとしての治療」から「サイエンスとしての治療学」へと発展させる考え方を学びます。実験室データのみに基づく観念論的薬理学ではなく，「臨床における事実」に立脚したサイエンス」としての治療学を理解させるための薬理学を学びます。	和 田 孝一郎 塩 田 直 孝
腫瘍の発生・増殖とその制御	細胞の発生・分化・増殖に関する基礎科学から腫瘍細胞発生の分子機序，細胞周期の調節異常，細胞分化と増殖の人為的統御について学びます。	鈴 宮 淳 司 浦 野 裕 健 吉 山 義 規 田 島 義 証 京 山 健 哲 中 山 健 太郎 関 根 浄 治 嘉 数 直 樹 福 田 誠 司
抗 悪 性 腫 瘍 薬 の 臨 床 薬 物 動 態 学	抗悪性腫瘍薬の臨床薬物動態（PK）と抗腫瘍活性・副作用（PD）の関係（PK/PD）について学ぶとともに，代表的ながん化学療法における投与設計・レジメン管理に必要な基本的知識を学びます。	直 良 浩 司 磯 部 信 威 西 村 弘
地 域 医 療 学	地域医療学とは，高齢化・過疎化といった地域医療の現状を見据えて，大学病院をはじめとした拠点病院と一次，二次医療機関及び福祉関連施設が密に連絡しあって地域医療を展開し，その展開にどのようなアプローチが存在するかを多角的にとらえることを目的とした学問です。本講義では，地域医療学の現状をとらえつつ，従来からのアプローチから先端的研究までを網羅し，それが今後どのように地域医療として展開していくかということについて学びます。	熊 倉 俊 一 石 橋 秀 豊 神 田 幸 井 上 顕
医 療 社 会 学	人を最も主要な資源とする地域医療支援ネットワークを構築するために必要な医療経済・政策学，医療保健行政学，医療安全管理学，労働安全衛生学，環境管理学について学びます。各医療機関の管理とネットワークの構築に必要な各分野の活動に，マネジメント（人に働きかけて，協働的な営みを発展させることによって，効果・効率的な資源活用，環境適応の能力と創造性を高めて，地域医療支援を実現する）を基礎とした管理手法の修得を目指します。	小 林 裕 太 熊 倉 俊 一 廣 瀬 昌 幸 神 田 秀 顕 井 上 直 樹 嘉 数 雅 之 山 崎
労働と生活の心理学	地域医療支援コーディネータを養成するに際し，地域医療に従事する方々のメンタル面にも配慮できる能力を育成することは欠かせないことです。したがって，「労働と生活の心理学」では，ストレスの基本概念や対処法，業務従事者のメンタルヘルスや職場復帰などの産業臨床心理，対人関係や交渉といった社会（集団）心理などについて学びます。また，地域医療連携のシステム，効果などについても学習します。	太 田 明 神 崎 幸 杉 立 洋 足 昭

医 療 経 営 学	医療の質と経済性に関する理論，制度および研究方法等の基本的事項を学習し，理解するとともに，地域医療や地域包括ケア等の医療・介護・福祉施設経営や市町村等の厚生行政における実務上，研究上の問題点や課題に対して，修得した知識と技術を活用できることを目指します。	廣 瀬 昌 博 熊 倉 俊 一
医 療 管 理 学	「医療管理」に関する基本事項について，体系的に知識を修得するとともに，地域医療・地域包括ケアの現場の「医療管理」に関する知識と理解を深めます。また，「医療の質の管理，向上」と「医療安全管理」は表裏一体で，これに関する知識と理解を深め，その具体的な実践手法を学習します。	廣 瀬 昌 博 熊 倉 俊 一 内 田 宏 美
地 域 医 療 実 習	本学医学部附属病院において4週間，県内の基幹病院において1週間，へき地診療所において1週間，島根県医療政策課，市町村役場又は保健所において1週間，老人保健・福祉施設において1週間，計8週間の実習を行い，地域医療の現状，問題点及びその対策について学びます。	熊 倉 俊 一
地 域 医 療 実 習	地域医療実習 で学んだことを基に，更に県内の本学医学部附属病院以外の都市部の病院において1週間，へき地基幹病院において2週間，へき地診療所において2週間，島根県医療政策課，市町村役場又は保健所において2週間，老人保健・福祉施設において1週間，計8週間の実習を行い，地域医療の現状をより深く学ぶとともに，医療人への支援体制の必要性について学びます。更に，地域医療支援コーディネータとして働く際のノウハウについて修得を目指します。実習は，地域医療実習 以外の施設で行います。	熊 倉 俊 一
シミュレータ教育実習	学内外におけるシミュレータを用いた実習及び地域医療に関する実習を計6週間行います。シミュレータを用いた実習では，シミュレータ機器についての知識とシミュレータ機器使用についての技術を獲得するとともに，医学科のOSCE実習に教員の補助として参加し，シミュレータ教育の実践について学びます。また地域の医療現場で実習を行うことにより，地域の臨床教育病院におけるシミュレータ教育のあり方について学びます。	熊 倉 俊 一 石 橋 野 賢 豊 狩 野 二
シミュレータ教育実習	シミュレータ教育実習 で学んだことをもとに，さらに本学や地域臨床教育病院においてシミュレータを用いた教育実習を6週間行います。本実習では，シミュレータを用いた教育に必要なプログラムの作成方法や評価方法の修得に努めるとともに，地域の医療技術向上（大学と地域臨床教育病院との稼働，シミュレータ教育の均てん化）のための方策について学びます。	熊 倉 俊 一 石 橋 野 賢 豊 狩 野 二
地 域 包 括 ケ ア 実 習	本学医学部附属病院において2週間，津和野共存病院（鹿足郡津和野町）において2週間，加藤病院（邑智郡川本町）において2週間，計6週間の実習を行い，両病院で実践している地域包括ケアおよび地域医療の現状を経験することにより，その実状とともに地域包括ケアで連携する多職種の業務や患者ならびに家族，地域住民について包括的に学びます。	廣 瀬 昌 博 熊 倉 俊 一 馬 庭 壯 吉
地 域 包 括 ケ ア 実 習	地域包括ケア実習 で学んだことをもとに，出雲市の医療・介護・福祉施設での実習とともに，訪問看護やケア・マネジャーによる在宅ケア患者への訪問に同行し，地域包括ケアにおける各医療提供者，患者，家族および地域住民への理解を深めます。また，兵庫医科大学篠山医療センターにおける実習が2週間含まれます。	廣 瀬 昌 博 熊 倉 俊 一 馬 庭 壯 吉

医 科 学 演 習	(1)各研究室で定例的な演習を行い，以下のような医科学研究の遂行に必要な基本技能を学びます。英語論文の批判的読解能力，実験仮説を組み立てる能力，口頭発表・討論の能力，論文作成能力を獲得します。 (2)半期に1回，修士課程全体で発表・討論の演習を行います。修士課程の全学生と全教員が一堂に会して各自の研究目的，研究方法論，研究進捗状況，反省点や今後の課題などについて徹底的に議論し，修士論文作成に向けて実践的に学びます。 (3)がん専門薬剤師養成コースにおいては，1年次にがん専門薬剤師養成のための臨床研修（3ヶ月間）を履修し，臨床症例から設定した課題研究及びその報告を(1)及び(2)の一部に含めて実践します。	各学生の所属する研究室の担当教員
医 科 学 特 別 研 究	各学生が所属する研究室で実験を軸とした演習を行います。実験技術に関する実技教育も含むので，実習でもあります。前記の医科学演習とも連携して，実験仮説の組み立て，仮説の実証に至る実験方略，データ収集法，仮説検証過程の自己検証，論文化の方略と技術を実践的に学び，修士論文を作成します。	各学生の所属する研究室の担当教員
地域医療学特別研究	地域医療実習 及び地域医療実習 に関連した研究について修士論文を作成します。又は特定の課題について研究の成果報告書を作成します。	熊 倉 俊 一
シミュレータ教育特別研究	シミュレータ教育実習 及びシミュレータ教育実習 に関連した研究について修士論文を作成します。又は特定の課題について研究の成果報告書を作成します。	熊 倉 俊 一
地域包括ケア特別研究	地域包括ケア実習 及び地域包括ケア実習 に関連した研究について修士論文を作成します。又は特定の課題について研究の成果報告書を作成します。	廣 瀬 昌 博
老 年 医 学	生活習慣病等による老年期における神経系，内臓系，運動器系等の機能障害の病態生理と予防，治療，高齢者の健康福祉システム等について学びます。	山 口 修 平 井 上 顯 矢 野 彰 三
リハビリテーション医学	各種機能障害に対するリハビリテーションの理論と実際を学びます。また，リハビリテーション関連の専門知識を義肢等装具の製作所現場訪問を含めて学習します。	内 尾 祐 司 馬 庭 壯 吉
先天代謝異常学・臨床遺伝学	先天代謝異常をはじめとする遺伝子異常の分類，病因，病態，早期診断，発症予防，治療とその研究法について学びます。特に質量分析を中心とした臨床診断法，代謝障害に基づく病態の解析法について詳しく学びます。	並 河 徹 山 口 清 長 井 篤 福 田 誠 磯 村 司 実
胎 児 ・ 生 殖 医 学	ヒトの個体発生の概要，特に組織が形成され生後につながる臓器機能が発達してくる胎児期後半における成長の発生過程と異常について，診断と治療の概略，催奇形物質など環境因子の作用を含めて学びます。更に，生殖医学の最新情報について学びます。	大 谷 浩 金 崎 春 彦
発生工学・実験動物学	実験動物の意義，利用法と倫理，初期胚培養・胚移植などの基本的操作，トランスジェニック，本学で確立した子宮外発生法など遺伝要因と環境要因の働き，先天異常のメカニズムを解析するための発生工学的手法の実際と意義・利用法について学びます。	大 谷 浩 並 河 徹
再生医学・組織工学	胚性幹細胞，各種の組織幹細胞の意義と，これらを用いた再生医学，組織工学の実験的研究と臨床応用について最新情報を学びます。	内 尾 祐 司 大 平 明 弘 松 崎 有 未

医 食 同 源 の 科 学	まず食品・栄養と生体内代謝機構との関係を理解します。その上で、中医薬等による自己免疫疾患・老化関連疾患の治療、生活習慣病の予防に関する食品因子の作用、新規の食糧・栄養資源の探索と応用、健康・機能性食品の開発等について最先端の研究内容を学びます。	中 木 小 橋	村 下 林 本	守 芳 裕 道	彦 一 太 男
医 療 情 報 学	医療情報を収集・解析・管理・応用する方法について学びます。特に、地域医療ネットワークシステム、無線LANによる病院・病床管理、データマイニングによる意思決定支援を中心に、e-Hospitalを構築する要素技術について学びます。	津 平	本 野	周 章	作 二
精 神 神 経 科 学	現代において増加しつつある多様な「心の問題」に対し、その解明を図るためにより科学的なアプローチを目指します。精神医学や神経心理学、健康医学理論の立場からの研究の概説を行い、具体的な問題にアプローチ出来るように学びます。	堀 稲	口 垣	卓	淳 司
生活環境と健康の科学	健康に影響する生活環境要因に関して学びます。疫学研究、遺伝的要因の解析、予防医学について学びます。	紫 神 嘉 井 山	藤 田 数 上 崎	秀 直 雅	治 幸 樹 顕 之
環 境 生 理 学	様々な環境要因による内臓機能への影響と、自律神経及び内分泌等の調節によるホメオスタシス維持機構について学びます。特に体温調節と温度適応、循環調節について最新の知見を学びます。	紫 橋 藤	藤 本 井	道 政	治 男 俊
免 疫 学 (生体防御システム学)	生体防御にあずかる機構を分子・細胞レベルから個体レベルの高次統合システムまで階層的に学びます。特に、自然免疫系と獲得免疫系との相互関連にも注目して新たな概念を理解します。	佐 原 森 石 村 金	野 田 田 原 川 子	千 栄 俊 洋	晶 守 伸 治 子 栄
生 体 情 報 伝 達 学	生体は多種多様な細胞が高次に統合されたシステムですが、その高度なシステム調節の基盤である神経系等細胞の、細胞間及び細胞内の情報伝達を分子・細胞・組織レベルで学びます。	松 安 廣 椎 中 兒 金	本 井 田 名 村 玉 崎	健 幸 秋 浩 守 達 春	一 彦 彦 昭 彦 夫 彦
* 医 療 の た め の 光 工 学 の 基 礎	近年、光エレクトロニクス、コンピュータ、ナノテクノロジーなどの著しい進歩が、光を使った医療診断や治療技術に変革をもたらし、医療分野における様々な新しい応用が注目されています。光工学の生命科学の様々な分野への応用に使われている方法や技術について、その原理の基礎を学び、その理解を深めます。	廣 大 長 中 藤 佐 藤 増 松 山	田 平 井 村 井 藤 田 田 崎 本	秋 明 守 政 秀 恭 浩 達	彦 弘 篤 彦 俊 一 久 次 貴 之
* 機 能 性 物 質 ・ 食 品 の 応 用 の 基 礎	医療材料の開発とそれに伴う医療技術の進歩は、医療全般の向上に大きく貢献してきたし今後も貢献するものと期待されています。理工農学専門家の立場から、生体内において多彩な機能を発揮する物質の応用について基礎から学びます。	原 川 橋 嘉 福 半 清 西 垣 小 板 川 佐 鈴	田 内 本 数 田 田 家 内 俣 村 向 藤 木	秀 道 直 誠 光 裕 利 美	守 之 男 樹 司 真 泰 寛 司 之 誠 夫 成

* 医 生 物 学 と 数 学 ・ 情 報 科 学 の 接 点	単一の受精卵から成体にいたる発生過程や、成体における構造と機能の関連、さらにそれら正常な状態からの逸脱としての先天異常、がん、生活習慣病などの疾病における複雑な生命現象の解析・理解に、数学・情報科学を応用することが試みられています。この科目では、具体的な事例を通して、医生物学から提起される多様なニーズと応用の可能性のある数学・情報科学の理論との接点について知り、基礎的な概念や知識を習得します。	大 廣 山 小 野 内 服 杉 中 平	谷 田 口 藤 部 江 西 川	秋 修 慶 貴 泰 敏 正	浩 彦 平 一 太 直 郎 浩 人
* 臨 床 ・ 社 会 ・ 環 境 医 学 と 高 度 情 報 学 の 接 点	医学の進歩を情報学の進歩と照らし合わせて理解することを目指します。病理学、環境保健、臨床検査、医療情報を主な視点として、情報との係わりを学びます。更に、人間の置かれる地球環境にまで視野を拡げ、今後の情報社会を見通します。また、それぞれの取り組みを正しく理解するべく、情報技術についての基礎的な事項も併せて学びます。	長 並 津 神 井 濱 磯 山 平 石 岡 廣 六	井 河 本 田 上 野 村 崎 川 賀 本 富 井	周 秀 雅 正 裕 哲	篤 徹 作 幸 顕 強 実 之 人 明 覚 也 淳
* 理 工 医 学 の た め の 生 物 材 料 学 の 基 礎	理工医学のための生物材料学の基礎では医学・医療の場で用いられる生物材料に関する基礎知識と一般的な研究方法などについて、講義・セミナー等で主に実際の研究事例を通して学びます。また、基礎・臨床医学応用に関する基礎知識についても、生化学、法医学、皮膚科学、眼科学、歯科口腔外科学、整形外科学領域についての特論をオムニバス形式で学びます。	内 浦 竹 森 大 関 永 兒 管 中 加 上 臼	尾 野 下 田 平 根 井 玉 野 井 藤 原 杵	祐 治 栄 明 浄 秀 達 貴 毅 定	司 健 男 伸 弘 治 政 夫 浩 尚 信 徹 年
* 放 射 線 の 医 療 応 用 と 同 位 元 素 の 水 環 境 へ の 影 響	放射線医学にはこれまでも物理学が重要な役割を果たしてきましたが、放射線医学の更なる発展の為に、物理学との連携は欠かせません。また、環境問題を考える上で、水中の同位元素、という新たな視点が重要となりつつあります。この授業では放射線医学と物理学の接点について、さらには水中の同位元素と環境との関わりについて学びます。	北 猪 廣 大 三	垣 俣 光 庭 瓶	泰 一 卓 良	一 典 郎 也 和
* 発 明 の 権 利 化 と 社 会 貢 献	研究から生まれる発明の権利化と知的財産に関する基礎知識を講義・セミナー等において習得し、医工連携の研究事例や産学連携による新産業創出およびマーケティングについての特論をオムニバス形式で学びます。	中 阿 久 北 丹 中	村 戸 村 生 野	守 敬 寿 晃 睦	彦 治 宏 隆 子

備考 医理工農連携プログラム開設について

最近の医学医療の進歩は著しく、特に材料のみならず理工学の主要技術が医学医療に広く応用されています。このような観点より、本研究科におきましては医療技術・医療機器開発等を行う上で必要な医学に関する知識や、最新医療を支える医療技術・医療用機器に関する原理や基礎知識を修得するために、平成20年度より総合理工学研究科と連携した「医・理工連携プログラム」を開設しました。さらに平成21年度より、本学の特徴的な研究分野である「水」を含む資源循環型社会の構築に関する研究の視点を加えるため、生物資源科学研究科を含む新たな教員の参加を得て、「医理工農連携プログラム」として内容を強化しました。

医理工農連携プログラムの授業科目は上記表の*印の授業科目です。

6 授業科目、単位数及び履修方法

1) 総合医科学コース

区分	授 業 科 目	授業を行う年次	単 位 数
必修科目	生命科学概論	1	1
	人体形態学	1	2
	人体機能学	1	2
	病理病態学	1	2
	社会医学	1	2
	医の倫理学	1	2
	臨床医学概論	1	2
	医科学演習	1・2	3
	医科学特別研究	1・2	6
選択科目	老年医学	1・2	2
	リハビリテーション医学	1・2	2
	先天代謝異常学・臨床遺伝学	1・2	2
	胎児・生殖医学	1・2	2
	発生工学・実験動物学	1・2	2
	再生医学・組織工学	1・2	2
	医食同源の科学	1・2	2
	母子保健・教育	1・2	2
	医療情報学	1・2	2
	精神神経科学	1・2	2
	生活環境と健康の科学	1・2	2
	環境生理学	1・2	2
	免疫学(生体防御システム学)	1・2	2
	生体情報伝達学	1・2	2
	病態生理に基づいた薬物治療学	1・2	2
	腫瘍の発生・増殖とその制御	1・2	2
	抗悪性腫瘍薬の臨床薬物動態学	1・2	2
	地域医療学	1・2	2
	医療社会学	1・2	2
	労働と生活の心理学	1・2	2
	*医療のための光工学の基礎	1・2	2
	*機能性物質・食品の応用の基礎	1・2	2
	*医生物学と数学・情報科学の接点	1・2	2
	*臨床・社会・環境医学と高度情報学の接点	1・2	2
	*理工医学のための生物材料学の基礎	1・2	2
	*放射線の医療応用と同位元素の水環境への影響	1・2	2
	*発明の権利化と社会貢献	1・2	2
(備考) 全授業科目のうち、必修科目22単位及び選択科目から4科目以上で8単位以上計30単位以上を修得する。 *印は医理工農連携プログラム開設科目			

2) がん専門薬剤師養成コース

区分	授 業 科 目	授業を行う年次	単 位 数
必修科目	生 命 科 学 概 論	1	1
	人 体 形 態 学	1	2
	人 体 機 能 学	1	2
	病 理 病 態 学	1	2
	社 会 医 学	1	2
	医 の 倫 理 学	1	2
	臨 床 医 学 概 論	1	2
	病態生理に基づいた薬物治療学	1	2
	腫瘍の発生・増殖とその制御	1	2
	抗悪性腫瘍薬の臨床薬物動態学	1	2
	医 科 学 演 習	1・2	3
	医 科 学 特 別 研 究	1・2	6
選択科目	老 年 医 学	1・2	2
	リハビリテーション医学	1・2	2
	先天代謝異常学・臨床遺伝学	1・2	2
	胎 児 ・ 生 殖 医 学	1・2	2
	発生工学・実験動物学	1・2	2
	再生医学・組織工学	1・2	2
	医 食 同 源 の 科 学	1・2	2
	母 子 保 健 ・ 教 育	1・2	2
	医 療 情 報 学	1・2	2
	精 神 神 経 科 学	1・2	2
	生 活 環 境 と 健 康 の 科 学	1・2	2
	環 境 生 理 学	1・2	2
	免疫学(生体防御システム学)	1・2	2
	生 体 情 報 伝 達 学	1・2	2
	地 域 医 療 学	1・2	2
	医 療 社 会 学	1・2	2
	労 働 と 生 活 の 心 理 学	1・2	2
	*医療のための光工学の基礎	1・2	2
	*機能性物質・食品の応用の基礎	1・2	2
	*医生物学と数学・情報科学の接点	1・2	2
	*臨床・社会・環境医学と高度情報学の接点	1・2	2
	*理工医学のための生物材料学の基礎	1・2	2
	*放射線の医療応用と同位元素の水環境への影響	1・2	2
	*発 明 の 権 利 化 と 社 会 貢 献	1・2	2
(備考) 全授業科目のうち、必修科目28単位及び選択科目から1科目以上で2単位以上計30単位以上を修得する。 *印は医理工農連携プログラム開設科目			

1年次には本学医学部附属病院において所定の研修プログラムに基づいた「がん専門薬剤師養成研修(3ヶ月間)」を履修します。

3) 地域医療支援コーディネータ養成コース

区分	授 業 科 目	授業を行う 年 次	単 位 数
必修科目	生 命 科 学 概 論	1・2	1
	臨 床 医 学 概 論	1・2	2
	地 域 医 療 学	1・2	2
	医 療 社 会 学	1・2	2
	労 働 と 生 活 の 心 理 学	1・2	2
	地 域 医 療 実 習	1・2	4
	地 域 医 療 実 習	1・2	4
	地 域 医 療 学 特 別 研 究	1・2	5
選択科目	人 体 形 態 学	1・2	2
	人 体 機 能 学	1・2	2
	病 理 病 態 学	1・2	2
	社 会 医 学	1・2	2
	医 の 倫 理 学	1・2	2
	老 年 医 学	1・2	2
	リハビリテーション医学	1・2	2
	先天代謝異常学・臨床遺伝学	1・2	2
	胎 児 ・ 生 殖 医 学	1・2	2
	発 生 工 学 ・ 実 験 動 物 学	1・2	2
	再 生 医 学 ・ 組 織 工 学	1・2	2
	医 食 同 源 の 科 学	1・2	2
	母 子 保 健 ・ 教 育	1・2	2
	医 療 情 報 学	1・2	2
	精 神 神 経 科 学	1・2	2
	生 活 環 境 と 健 康 の 科 学	1・2	2
	環 境 生 理 学	1・2	2
	免疫学(生体防御システム学)	1・2	2
	生 体 情 報 伝 達 学	1・2	2
	病態生理に基づいた薬物治療学	1・2	2
	腫瘍の発生・増殖とその制御	1・2	2
	抗悪性腫瘍薬の臨床薬物動態学	1・2	2
	*医療のための光工学の基礎	1・2	2
	*機能性物質・食品の応用の基礎	1・2	2
	*医生物学と数学・情報科学の接点	1・2	2
	*臨床・社会・環境医学と高度情報学の接点	1・2	2
	*理工医学のための生物材料学の基礎	1・2	2
	*放射線の医療応用と同位元素の水環境への影響	1・2	2
	*発 明 の 権 利 化 と 社 会 貢 献	1・2	2
(備考) 全授業科目のうち、必修科目22単位及び選択科目から4科目以上で 8単位以上計30単位以上を修得する。 *印は医理工農連携プログラム開設科目			

4) 医療シミュレータ教育指導者養成コース

区分	授 業 科 目	授業を行う 年 次	単 位 数
必修科目	生 命 科 学 概 論	1・2	1
	臨 床 医 学 概 論	1・2	2
	地 域 医 療 学	1・2	2
	医 療 社 会 学	1・2	2
	シミュレータ教育実習	1・2	6
	シミュレータ教育実習	1・2	6
	シミュレータ教育特別研究	1・2	5
選択科目	人 体 形 態 学	1・2	2
	人 体 機 能 学	1・2	2
	病 理 病 態 学	1・2	2
	社 会 医 学	1・2	2
	医 の 倫 理 学	1・2	2
	老 年 医 学	1・2	2
	リハビリテーション医学	1・2	2
	先天代謝異常学・臨床遺伝学	1・2	2
	胎 児 ・ 生 殖 医 学	1・2	2
	発生工学・実験動物学	1・2	2
	再生医学・組織工学	1・2	2
	医 食 同 源 の 科 学	1・2	2
	母 子 保 健 ・ 教 育	1・2	2
	医 療 情 報 学	1・2	2
	精 神 神 経 科 学	1・2	2
	生 活 環 境 と 健 康 の 科 学	1・2	2
	環 境 生 理 学	1・2	2
	免疫学(生体防御システム学)	1・2	2
	生 体 情 報 伝 達 学	1・2	2
	病態生理に基づいた薬物治療学	1・2	2
	腫瘍の発生・増殖とその制御	1・2	2
	抗悪性腫瘍薬の臨床薬物動態学	1・2	2
	労 働 と 生 活 の 心 理 学	1・2	2
	*医療のための光工学の基礎	1・2	2
	*機能性物質・食品の応用の基礎	1・2	2
	*医生物学と数学・情報科学の接点	1・2	2
	*臨床・社会・環境医学と高度情報学の接点	1・2	2
	*理工医学のための生物材料学の基礎	1・2	2
	*放射線の医療応用と同位元素の水環境への影響	1・2	2
	*発 明 の 権 利 化 と 社 会 貢 献	1・2	2
(備考) 全授業科目のうち、必修科目24単位及び選択科目から3科目以上で 6単位以上計30単位以上を修得する。 *印は医理工農連携プログラム開設科目			

5) 地域包括ケア人材養成コース（医療経営重点）

区分	授 業 科 目	授業を行う 年 次	単 位 数
必修科目	地 域 医 療 学	1・2	2
	医 療 社 会 学	1・2	2
	労 働 と 生 活 の 心 理 学	1・2	2
	医 療 経 営 学	1・2	2
	医 療 管 理 学	1・2	2
	地 域 包 括 ケ ア 実 習	1・2	3
	地 域 包 括 ケ ア 実 習	1・2	3
	地 域 包 括 ケ ア 特 別 研 究	1・2	4
選択科目	生 命 科 学 概 論	1・2	1
	人 体 形 態 学	1・2	2
	人 体 機 能 学	1・2	2
	病 理 病 態 学	1・2	2
	社 会 医 学	1・2	2
	医 の 倫 理 学	1・2	2
	臨 床 医 学 概 論	1・2	2
	老 年 医 学	1・2	2
	リハビリテーション医学	1・2	2
	先天代謝異常学・臨床遺伝学	1・2	2
	胎 児 ・ 生 殖 医 学	1・2	2
	発 生 工 学 ・ 実 験 動 物 学	1・2	2
	再 生 医 学 ・ 組 織 工 学	1・2	2
	医 食 同 源 の 科 学	1・2	2
	母 子 保 健 ・ 教 育	1・2	2
	医 療 情 報 学	1・2	2
	精 神 神 経 科 学	1・2	2
	生 活 環 境 と 健 康 の 科 学	1・2	2
	環 境 生 理 学	1・2	2
	免疫学(生体防御システム学)	1・2	2
	生 体 情 報 伝 達 学	1・2	2
	病態生理に基づいた薬物治療学	1・2	2
	腫瘍の発生・増殖とその制御	1・2	2
	抗悪性腫瘍薬の臨床薬物動態学	1・2	2
	*医療のための光工学の基礎	1・2	2
	*機能性物質・食品の応用の基礎	1・2	2
	*医生物学と数学・情報科学の接点	1・2	2
	*臨床・社会・環境医学と高度情報学の接点	1・2	2
	*理工医学のための生物材料学の基礎	1・2	2
	*放射線の医療応用と同位元素の水環境への影響	1・2	2
	*発 明 の 権 利 化 と 社 会 貢 献	1・2	2
(備考) 全授業科目のうち、必修科目20単位及び選択科目から5科目以上で10単位以上計30単位以上を修得する。 *印は医理工農連携プログラム開設科目			

7 履修モデル

医科学専攻学生の履修モデルは次のとおりです。

(1) 総合医科学コース

(A) 老年人口対策のうちリハビリテーションに特に関心を持つ学生・社会人

研究テーマ：高齢者用装具の運動機能障害の原因と程度に応じた調節に関する研究

履修年次	必修科目	単位数	選択科目	単位数
1年次	生命科学概論	1	老年医学	2
	人体形態学	2	リハビリテーション医学	2
	人体機能学	2	再生医学・組織工学	2
	病理病態学	2	生活環境と健康の科学	2
	社会医学	2		
	医の倫理学	2		
	臨床医学概論	2		
1・2年次	医学演習	3		
	医学特別研究	6		
	小計	22	小計	8
履修単位合計	30単位			

(B) 若年人口対策のうち先天代謝異常の早期診断に特に関心を持つ学生・社会人

研究テーマ：有機酸代謝異常スクリーニング法の改良に関する研究

履修年次	必修科目	単位数	選択科目	単位数
1年次	生命科学概論	1	先天代謝異常学・臨床遺伝学	2
	人体形態学	2	胎児・生殖医学	2
	人体機能学	2	生体情報伝達学	2
	病理病態学	2	機能性物質・食品の応用の基礎	2
	社会医学	2		
	医の倫理学	2		
	臨床医学概論	2		
1・2年次	医学演習	3		
	医学特別研究	6		
	小計	22	小計	8
履修単位合計	30単位			

(C) 医食同源分野のうち新規機能性食品の開発に特に関心を持つ学生・社会人

研究テーマ：桑を用いた新規抗酸化食品の開発に関する研究

履修年次	必修科目	単位数	選択科目	単位数
1年次	生命科学概論	1	発生工学・実験動物学	2
	人体形態学	2	医食同源の科学	2
	人体機能学	2	生体情報伝達学	2
	病理病態学	2	病態生理に基づいた薬物治療学	2
	社会医学	2		
	医の倫理学	2		
	臨床医学概論	2		
1・2年次	医学演習	3		
	医学特別研究	6		
	小計	22	小計	8
履修単位合計	30単位			

(D) 若年人口対策のうち精神・心理的側面に特に関心を持つ学生・社会人

研究テーマ：小児入院患者における精神・心理発達の支援法に関する研究

履修年次	必修科目	単位数	選択科目	単位数
1年次	生命科学概論	1	胎児・生殖医学 母子保健・教育学 精神神経科学 環境生理学	2
	人体形態学	2		2
	人体機能学	2		2
	病理病態学	2		2
	社会医学	2		
	医の倫理学	2		
	臨床医学概論	2		
1・2年次	医学演習	3		
	医学特別研究	6		
	小計	22	小計	8
履修単位合計	30単位			

(2) がん専門薬剤師養成コース

がん専門薬剤師養成コースを履修し、修了後、がん薬物療法認定薬剤師及びがん専門薬剤師認定を受けようとする学生・社会人

研究テーマ：がん化学療法における薬学的管理の最適化に関する研究

履修年次	必修科目	単位数	選択科目	単位数
1年次	生命科学概論	1	免疫学(生体防御システム学)	2
	人体形態学	2		
	人体機能学	2		
	病理病態学	2		
	社会医学	2		
	医の倫理学	2		
	臨床医学概論	2		
	病態生理に基づいた薬物治療学	2		
	腫瘍の発生・増殖とその制御	2		
	抗悪性腫瘍薬の臨床薬物動態学	2		
1・2年次	医学演習	3		
	医学特別研究	6		
	小計	28	小計	2
履修単位合計	30単位			

(3) 地域医療支援コーディネータ養成コース

県、又は市町村等の健康福祉部門に勤務し、地域医療関係の仕事に従事する社会人

研究テーマ：へき地への医師定着を支援する行政職の役割に関する研究

履修年次	必修科目	単位数	選択科目	単位数
1年次	生命科学概論	1	医の倫理学 老年医学 医療情報学 生活環境と健康の科学	2
	臨床医学概論	2		2
	地域医療学	2		2
	医療社会学	2		2
	労働と生活の心理学	2		
	地域医療実習	4		
1・2年次	地域医療実習	4		
	地域医療学特別研究	5		
	小計	22	小計	8
履修単位合計	30単位			

(4) 医療シミュレータ教育指導者養成コース

医療系職種の養成機関において臨床実習前のシミュレータ教育に従事する社会人
研究テーマ：救急蘇生訓練用シミュレータの効果的な教育方法に関する研究

履修年次	必修科目	単位数	選択科目	単位数
1 年次	生命科学概論	1	人体形態学	2
	臨床医学概論	2	人体機能学	2
	地域医療学	2	医療倫理学	2
	医療社会学	2		
	シミュレータ教育実習	6		
1・2 年次	シミュレータ教育実習	6		
	シミュレータ教育特別研究	5		
	小 計	24	小 計	6
履修単位合計	30単位			

(5) 地域包括ケア人材養成コース（医療経営重点）

医療・介護・福祉施設における経営や厚生行政における財政・政策等に関心のある学生・社会人
研究テーマ：介護保険制度と福祉施設経営との関連性に関する研究

履修年次	必修科目	単位数	選択科目	単位数
1 年次	地域医療学	2	老年医学	2
	医療社会学	2	リハビリテーション医学	2
	労働と生活の心理学	2	社会医学	2
	医療経営学	2	医療倫理学	2
	医療管理学	2	医療情報学	2
	地域包括ケア実習	3		
1・2 年次	地域包括ケア実習	3		
	地域包括ケア特別研究	4		
	小 計	20	小 計	10
履修単位合計	30単位			

8 修了の要件

1) 総合医科学コース

修士課程に2年間在籍し、必修科目22単位、選択科目8単位以上の合計30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、学位論文の審査及び試験に合格することとします。

2) がん専門薬剤師養成コース

修士課程に2年間在籍し、必修科目28単位、選択科目2単位以上の合計30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、学位論文の審査及び試験に合格することとします。

3) 地域医療支援コーディネータ養成コース

修士課程に2年間在籍し、必修科目22単位、選択科目8単位以上の合計30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、学位論文又は特定の課題についての研究の成果の審査及び試験に合格することとします。

4) 医療シミュレータ教育指導者養成コース

修士課程に2年間在籍し、必修科目24単位、選択科目6単位以上の合計30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、学位論文又は特定の課題についての研究の成果の審査及び試験に合格することとします。

5) 地域包括ケア人材養成コース（医療経営重点）

修士課程に2年間在籍し、必修科目20単位、選択科目10単位以上の合計30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、学位論文又は特定の課題についての研究の成果の審査及び試験に合格することとします。

医理工農連携プログラム（15頁を参照ください。）の科目は、上記 1）、2）、3）、4）及び 5）のいずれのコースに属する学生も前記要件の範囲で履修できます。

9 学位授与

学位は、修士（医科学）です。

10 長期履修制度

長期履修制度とは、職業を有している人などで研究時間が十分に取れず標準の修業年限では修了することが困難な人が、修業年限を超えて長期にわたって計画的に教育課程の履修を行う制度です。

(1) 長期履修を申請することができる人

職業を有している人

育児、親族の介護等の特別の事情のある人

(2) 長期履修の期間

長期履修が認められる期間は年単位で、標準の修業年限の 2 倍の年数を超えることができません。

2 年 → 3 年又は 4 年

(3) 授業料

授業料は、通常の授業料の年額に標準修業年限を乗じた額を長期履修期間の年数で除した額を毎年納入します。

$(\text{通常の年額授業料} \times 2 \text{ 年}) \div (3 \text{ 年又は } 4 \text{ 年}) = \text{長期履修の年額授業料}$

例 1) 3 年の長期履修の場合 $535,800 \text{ 円} \times 2 \text{ 年} \div 3 \text{ 年} = 357,200 \text{ 円 (年額)}$

例 2) 4 年の長期履修の場合 $535,800 \text{ 円} \times 2 \text{ 年} \div 4 \text{ 年} = 267,900 \text{ 円 (年額)}$

(4) 申請手続

申請時期

入学手続期間内

提出書類

ア．長期履修申請書

イ．在職証明書（職業を有している人）

ウ．その他大学院が必要として求める書類

(5) その他

長期履修を希望される方は、入学手続時に申し出てください。

相談窓口

島根大学医学部学務課大学院担当

〒693-8501 出雲市塩冶町89-1

電話 0853-20-2083

電子メール nyusi@med.shimane-u.ac.jp

11 入学料・授業料の免除及び徴収猶予制度

入学料については、経済的理由によって納付が困難であり、かつ学業優秀であると認められる者、あるいは、特別の事情（入学前 1 年以内に、入学する者の学資負担者が死亡し、又は入学する者もしくは学資負担者が風水害等の被害を受けた場合等）によって納入が困難であると認められる者に対して、その全額又は半額が免除される制度及び徴収を猶予される制度があります。

授業料については、全額又は半額が免除される制度があります。

12 奨学金制度

【日本学生支援機構奨学金】

学業成績，人物とも優れた学生で，経済的理由によって修学困難な方には，選考の上，奨学金が貸与されます。

平成26年度貸与月額

- 第一種奨学金（無利子） 50,000円又は88,000円
- 第二種奨学金（有利子） （年3%を上限とする利息付，在学中は無利息）
50,000円・80,000円・100,000円・130,000円・150,000円の5種類から貸与額を選択

13 学生教育研究災害傷害保険・学研災付帯賠償責任保険

教育研究活動中及び通学中等に傷害を被った場合あるいは，他人に対する賠償責任が発生した場合の補償制度で，医学部では学生全員が加入する保険です。

14 個人情報の取扱い

入学志願者・受験者の個人情報については，次のとおり取り扱います。

出願書類等に記載された個人情報（氏名，生年月日，性別その他の個人情報等）は，入学者選抜及び合格通知並びに入学手続きを行うために利用します。

また，同個人情報は，合格者の入学後の教務関係（学籍，修学指導等），学生支援関係（健康管理，奨学金申請等），授業料等に関する業務及び調査・研究（入試の改善や志望動向の調査・分析等）を行う目的をもって本学が管理します。他の目的での利用及び本学の関係教職員以外への提供は行いません。

島根大学における個人情報の取扱いについては下記のとおりです。

個人情報保護ポリシー

島根大学は，個人情報の重要性を認識し，個人情報の不正使用や漏えい等を防ぎ，適正に取り扱うため，法令その他の規程に基づき，安全管理体制を整備するとともに，職員の個人情報保護への意識向上に努めます。

島根大学は，次のとおり個人情報保護への取り組みを継続的に実施していきます。

(1) 個人情報の収集について

個人情報を収集する場合は，利用目的を明示したうえで行います。

(2) 個人情報の利用及び提供について

個人情報は，利用目的の達成に必要な範囲内で利用し，第三者に提供することはありません。

なお，法律に基づく場合や本人から事前に同意を得ている場合は，第三者に提供することがあります。

(3) 個人情報保護のための安全対策について

個人情報への不正アクセス，紛失，破壊，改ざん並びに漏えい等を未然に防ぐための安全対策に努めます。

(4) 個人情報の管理体制について

個人情報を適切に管理するため、総括保護責任者、部局保護責任者、保護管理者、保護担当者による管理体制を整備しています。

(5) 個人情報の開示等及び相談窓口について

本学が保有している個人情報については、「独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律」により開示等の請求を行うことができます。

なお、開示等の請求及び苦情相談等については、下記の窓口をお願いいたします。

島根大学総務部総務課

電 話 0852-32-9755

電子メール gad-koho@office.shimane-u.ac.jp

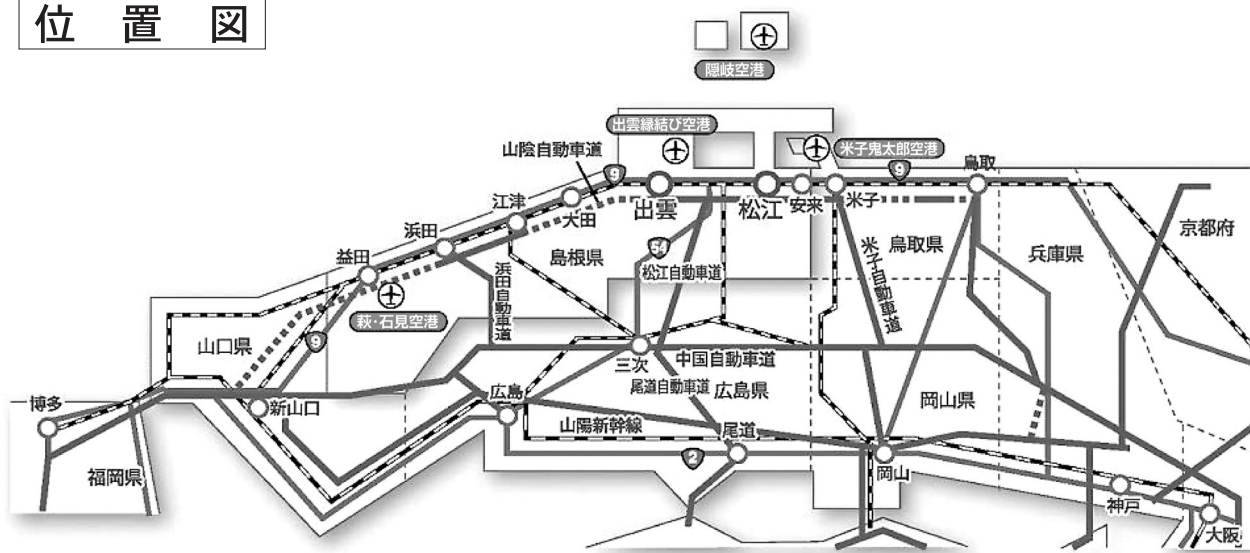
個人情報とは

生存する個人に関する情報であって、当該情報に含まれる氏名、生年月日その他の記述により特定の個人を識別できるもの（他の情報と照合することができ、それにより特定の個人を識別することができることとなるものを含む。）をいいます。

個人情報保護関連規定

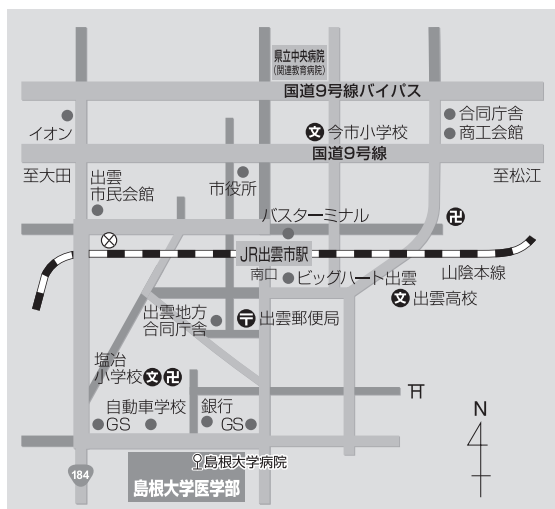
http://www.shimane-u.ac.jp/introduction/information/personal_data/personal_data10.html

位置図



交通案内

出雲キャンパス	空路 東京（羽田） → 出雲 約 1 時間25分 大阪（伊丹） → 出雲 約 1 時間 福岡 → 出雲 約 1 時間 5 分 出雲空港から空港連絡バス出雲市駅行（約25分） J R 出雲市駅下車	J R 出雲市駅より 一畑バス 出雲市駅・上塩治車庫行 島根大学病院下車 約10分 市内循環左回り（150円バス）・上塩治車庫行 築山新町下車 約 5 分 出雲須佐行 島根大学病院下車（2 番のりば） 約10分 須佐行は、朝夕の便で経由しない便もありますのでご確認ください。
	J R 東京 → 岡山 → 出雲市 約 6 時間30分 大阪 → 岡山 → 出雲市 約 3 時間45分 岡山 → 出雲市 約 3 時間 福岡 → 岡山 → 出雲市 約 4 時間45分	徒歩 J R 出雲市駅南口から徒歩25分
	高速バス 東京（渋谷） → 出雲 約11時間20分 名古屋 → 出雲 約10時間 大阪（梅田） → 出雲 約 5 時間35分 京都 → 出雲 約 5 時間50分 神戸（三宮） → 出雲 約 5 時間20分 岡山 → 出雲 約 4 時間 広島 → 出雲 約 2 時間50分 福岡 → 出雲 約 9 時間10分	



出雲キャンパスは、松江市内からは1時間以上要しますので、宿泊される場合は出雲市内の宿泊施設を利用してください。

建物配置図

